

神鋼アクテック株式会社

2025 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2025 年4月1日～ 2026 年3月31日)

脱臭素材の専門会社

高性能フィルターや脱臭装置の製造販売を通じて、
さまざまな快適環境の実現に貢献しています。

脱臭 オゾン分解 油煙除去

付加価値の高い機能材

新たな快適環境をめざして

ニオイでお困りではありませんか？ 神鋼アクテックでは、脱臭・オゾン分解・油煙除去などの高機能フィルターや脱臭装置の製造販売を通じて、家庭やオフィスから工場に至るまでさまざまな快適環境の実現に貢献しています。

Create The Future

発行日: 2026年4月15日

□目次

項 目	ページ
表紙	1
目次	2
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
認証・登録の対象組織・活動	4
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績(日高工場)	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～13
主な環境負荷の実績(大阪本社、東京営業所)	14
環境経営目標及びその実績(大阪本社、東京営業所)	14
環境経営計画の取組結果とその評価(大阪本社、東京営業所)	14
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	15
外部からの環境上の苦情・要望等	15
緊急事態対応訓練	15
代表者による全体の評価と見直し・指示	16
これまでの環境活動の紹介	17
編集後記	18

□ごあいさつ

神鋼アクテック株式会社は、環境改善のための各種フィルター製品と、その応用機器を製造販売しています。家庭、オフィス空間から、工場排気に至るまで、快適環境作りのお役に立つことを目標としています。2008年9月から本格的な環境活動を開始し、2009年5月に生産工場がエコアクション21の認証を取得しました。また、2013年1月からは大阪本社・東京営業所を含めた活動を展開しています。環境測定データ及び取組状況を定期的に確認し、更なる環境負荷低減が可能な負荷を抽出しています。全社従業員ひとりひとりが目標を持って行動することを宣言し、改善活動に取り組んでいます。

神鋼アクテック(株) 日高工場・大阪本社・東京営業所

環境経営方針

(基本理念)

日高工場は、日本海に注ぐ円山川や緑豊かな神鍋高原に囲まれ、特別天然記念物コウノトリの野生復帰を進めている豊岡市という多様な自然環境に恵まれた地にあります。

当社は、豊かな自然環境・地球環境を保全することが人類共通の最重要課題の一つと認識し、当社の重要な経営課題の一つと位置付け、全組織をあげて環境経営に積極的に取り組みます。

(基本方針)

1. 環境関連法規等の遵守

環境に関する法令・条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境に配慮した事業活動を行います。

2. 環境負荷の低減

事業活動に伴う環境負荷を把握し、以下の重点項目について継続的な改善に取り組みます。

- ・ 二酸化炭素排出量の削減(省エネルギーの推進)
- ・ 廃棄物の削減及び再資源化の促進
- ・ 水使用量の削減
- ・ 化学物質使用量の削減
- ・ 環境に配慮した原材料使用と製品・サービスの実現

3. 環境経営目標の設定と見直し

本方針に基づく目標を定め、定期的にその達成状況を評価し、必要に応じて見直しを行います。

4. 従業員への周知と教育

本方針を全従業員に周知するとともに、環境教育・啓発活動を通じて環境意識の向上を図ります。

5. 情報公開とコミュニケーション

取組状況を環境経営レポート等により積極的に公開し、地域社会や利害関係者とのコミュニケーションを大切にします。

6. 継続的改善

環境経営システムを継続的に改善し、環境と調和した持続可能な社会の実現に貢献します。

制定日:2008年8月1日

改訂日:2026年4月28日

神鋼アクテック株式会社 日高工場
工場長 林 弥史

□組織の概要

更新日：2026年4月15日

- (1) 名称及び代表者名
神鋼アクテック株式会社
日高工場長 林 弥史
- (2) 所在地
日高工場 兵庫県豊岡市日高町岩中682番地
宵田倉庫 兵庫県豊岡市日高町岩中宇中坪138-1 (組織上は日高工場に所属)
大阪本社 大阪府大阪市西区靱本町1丁目11番7号信濃橋三井ビルディング11階
東京営業所 東京都台東区上野5丁目15番14号ONEST上野御徒町ビル2階
技術開発部 神奈川県藤沢市宮前100-1(株神戸製鋼所藤沢事業所内)
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 日高工場総務課長 吉岡 誠 TEL:0796-42-1212
担当者 日高工場製造課設備Gr長 池田 智史 TEL:0796-42-1212

- (4) 事業内容
高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売

- (5) 事業の規模

売上高	1,169 百万円				
	日高工場	大阪本社	東京営業所	技術開発部	合計
従業員	名 43 名	7 名	5 名	11 名	66名
延べ床面積	m ² 16474 m ²	87.6 m ²	117.1 m ²	90 m ²	16,769m ²

- (6) 事業年度 4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 神鋼アクテック株式会社
対象事業所： 日高工場
大阪本社
東京営業所
対象外： 技術開発部 (株神戸製鋼所藤沢事業所内で環境活動に取組中)
活動： 高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売



□事業や製品(商品)の紹介

神鋼アクテック株式会社は、「におい」と環境を科学する脱臭素材の専門会社です。

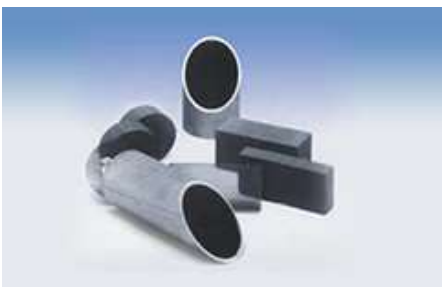
高機能材ハニカム

吸着剤による吸脱着作用や触媒分解作用により成分を吸着、分解することが出来ます。



品名: 厨房排気用脱臭ハニカム KDH

飲食店の厨房や食品加工工場から発生する調理排気臭の脱臭に最適です。



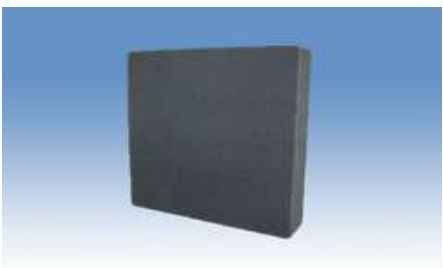
品名: 各種触媒ハニカム AKH

ご要望に応じて最適なフィルタをご提案致します。



品名: 厨房排気用脱臭フィルタ KCU

中小規模飲食店舗などから発生する調理排気臭の脱臭に最適です。



品名: 活性炭ハニカム ACH

脱臭、微量ガスの除去、空気清浄、触媒担体など様々な用途に応じます。

片面溶接用裏当て材

片面溶接を行なう際に使用し、良好で健全な裏ビードが得られます。



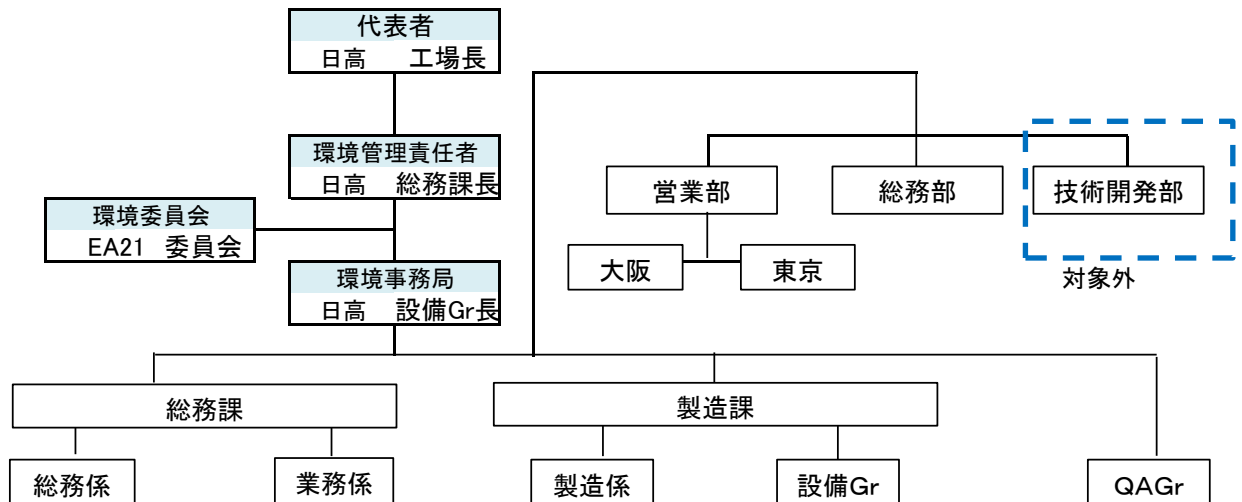
品名: FA-B1



品名: FB-B3

□実施体制及び役割・責任・権限表

更新日：2026年4月15日



区分	役割・責任・権限
代表者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定・見直し - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直し、指示 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認、公表
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐、日高の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 - 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	- 環境経営計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価
部門長 係長 Gr長	- 自部門における環境経営方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 - 試行・訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績(日高工場)

項 目	単位	2023年	2024年	2025年
生産量(高機能)	トン	175.2	110.9	107.6
生産量(裏当て)	トン	235.0	290.2	279.7
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	428.8	419.2	415.2
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	4,422	5,145	5,001
産業廃棄物排出量	kg	42,500	37,400	40,584
水使用量	m ³	1,862	1,658	1,754

※二酸化炭素排出係数 0.000418 t-CO₂/kWh 関西電力(令和四年度)調整後の係数

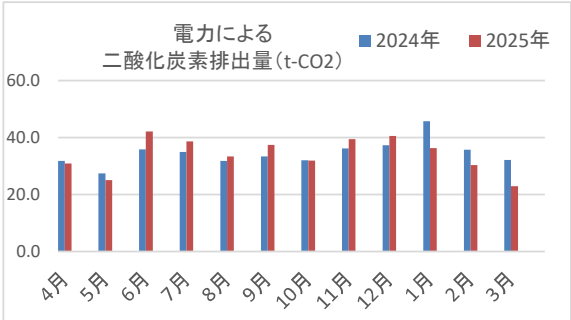
□環境経営目標及びその実績

項 目		2024年		2025年		評価	2026年	2027年
		(基準値)		上段: 下段:	排出量 原単位			
		(基準値)原単位		(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素排出量削減	t-CO2	414.1	409.9	408.6				
	基準年度比	100%	99%	99%				
	t-CO2/t	1.03	1.02	1.05	×	1.01	1.00	
	基準年度比	100%	99%	102%		98%	97%	
フォークリフト・トラック・社用車による二酸化炭素排出量削減	t-CO2	0.85	0.84	1.02				
	基準年度比	100%	99%	120%				
	t-CO2/t	0.0021	0.0021	0.0026	×	0.0021	0.0021	
	基準年度比	100%	99%	125%		98%	97%	
LPGによる二酸化炭素排出量削減	t-CO2	4.26	4.22	5.63				
	基準年度比	100%	99%	132%				
	t-CO2/t	0.0147	0.0145	0.0201	×	0.0144	0.0142	
	基準年度比	100%	99%	137%		98%	97%	
上記二酸化炭素排出量合計		t-CO2	419.2	415.0	415.2		407	402
一般廃棄物の削減	kg	5,145	5,094	5,001				
	基準年度比	100%	99%	97%				
	kg/t	12.8	12.7	12.9	×	12.6	12.4	
	基準年度比	100%	99%	101%		98%	97%	
上記一般廃棄物排出量合計		kg	5,145	5,094	5,001		5,042	4,991
(高機能)産業廃棄物の削減	kg	27,960	27,680	27,100				
	基準年度比	100%	99%	97%				
	kg/t	252.2	249.7	251.9	×	247.2	244.6	
	基準年度比	100%	99%	100%		98%	97%	
(裏当て)産業廃棄物の削減 監視項目	kg	370	366	0				
	基準年度比	100%	99%	0%				
	kg/t	1.3	1.3	0.0	○	1.2	1.2	
	基準年度比	100%	99%	0%		98%	97%	
(その他)産業廃棄物の削減 監視項目	kg	9,070	8,979	13,484				
	基準年度比	100%	99%	149%				
	kg/t	22.61	22.39	34.8	×	22.16	21.93	
	基準年度比	100%	99%	154%		98%	97%	
上記産業廃棄物排出量合計		kg	37,400	37,026	40,584		36,652	36,278
水使用量の削減	m	1,658	1,641	1,754				
	基準年度比	100%	99%	106%				
	m/t	4.1	4.1	4.5	×	4.1	4.0	
	基準年度比	100%	99%	110%		98%	97%	
上記水道水排出量合計		m	1,658	1,641	1,754		1,625	1,608
PRTR対象物質使用量 監視項目	kg	6,797	6,729	6,626				
	基準年度比	100%	99%	97%				
	kg/t	61.3	60.7	61.6	×	60.1	59.5	
	基準年度比	100%	99%	100%		98%	97%	
上記PRTR排出量合計		kg	6,797	6,729	6,626		6,661	6,593
コピー用紙使用量(A4)		枚	128,750	128,750	129,887	×	129,887	129,887
環境に配慮した生産活動		行動目標(次項による)						

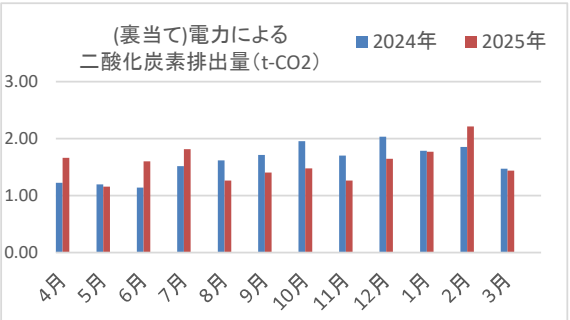
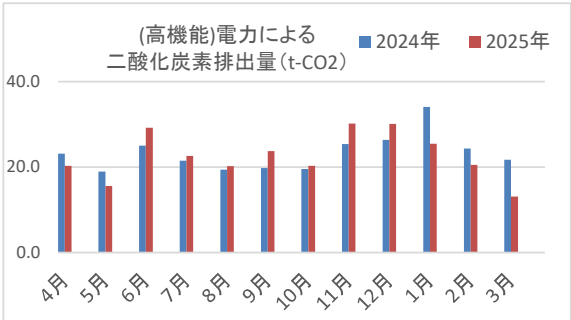
□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 3月の使用量が目標値を大きく下回った。生産量が少なく使用電力も比例して減少したことが影響したと思われる。 [次年度の取組計画] 2026年度も目標値を達成できるよう活動する。
・生産性、歩留り予算の必達～向上	○	
・焼成炉、乾燥炉の時間調整によるデマンド平準化	○	
・ラインのチョコ停対策	×	
・照明のこまめな消灯	○	
・集塵機フィルタ清掃	○	

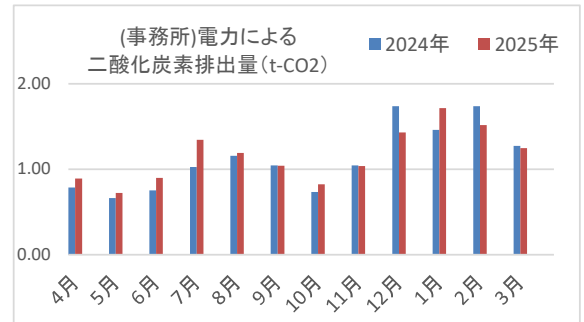
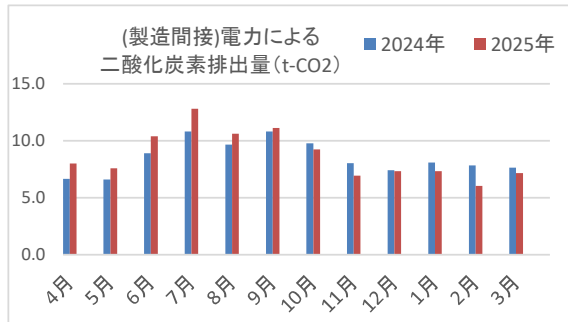


電力	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	31.8	27.4	35.8	34.9	31.8	33.3	32.0	36.2	37.3	45.7	35.8	32.1
合計	414.1	t-CO2	総生産量	401	t	原単位	1.03	t-CO2/t				
2025年	30.9	25.0	42.1	38.6	33.3	37.3	31.9	39.4	40.5	36.3	30.3	23.0
合計	408.6	t-CO2	総生産量	387	t	原単位	1.05	t-CO2/t	102%	(原単位基準年度比)		



高機能	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	23.2	18.9	25.1	21.5	19.4	19.8	19.6	25.4	26.4	34.1	24.3	21.7
合計	279.4	t-CO2	生産量	111	t	原単位	2.52	t-CO2/t				
2025年	20.3	15.6	29.2	22.6	20.2	23.8	20.3	30.2	30.1	25.5	20.5	13.1
合計	271.5	t-CO2	生産量	108	t	原単位	2.52	t-CO2/t	100%	(原単位基準年度比)		

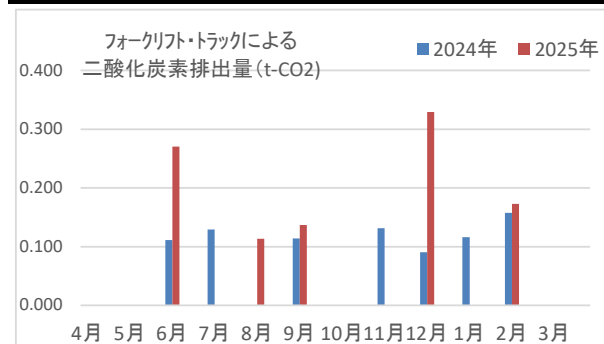
裏当て	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	1.22	1.20	1.14	1.52	1.62	1.71	1.96	1.71	2.03	1.79	1.85	1.47
合計	19.2	t-CO2	生産量	290	t	原単位	0.07	t-CO2/t				
2025年	2	1	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1
合計	18.7	t-CO2	生産量	280	t	原単位	0.07	t-CO2/t	101%	(原単位基準年度比)		



間接	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	6.6	6.6	8.9	10.8	9.7	10.8	9.7	8.0	7.4	8.1	7.8	7.6
合計	102.1	t-CO2	総生産量	401	t	原単位	0.25	t-CO2/t				
2025年	8.0	7.6	10.4	12.8	10.6	11.1	9.2	6.9	7.3	7.3	6.0	7.1
合計	104.5	t-CO2	総生産量	387	t	原単位	0.27	t-CO2/t	106%	(原単位基準年度比)		

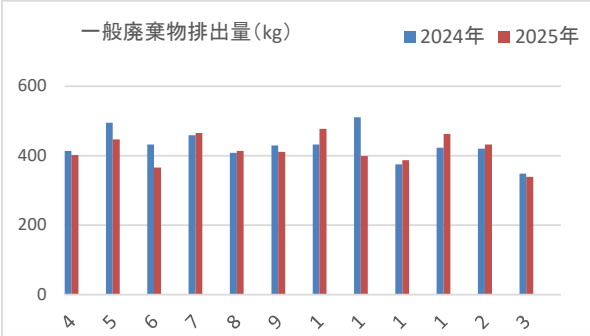
事務所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	0.79	0.66	0.75	1.03	1.15	1.04	0.73	1.04	1.74	1.46	1.74	1.27
合計	13.4	t-CO2	総生産量	401	t	原単位	0.03	t-CO2/t				
2025年	0.89	0.72	0.90	1.34	1.19	1.04	0.82	1.04	1.43	1.72	1.52	1.25
合計	13.8	t-CO2	総生産量	387	t	原単位	0.04	t-CO2/t	107%	(原単位基準年度比)		

フォークリフト・トラック・社用車による二酸化炭素排出量 達成状況				取組結果とその評価、次年度の取組計画								
数値目標				×	[取組結果とその評価] 年間を通じて目標値同等に抑えることが出来た。 [次年度の取組計画] 2026年度以降も引き続き省エネ活動をすすめる。							
・省エネ運転の教宣				○								
・効率的な荷役作業				○								

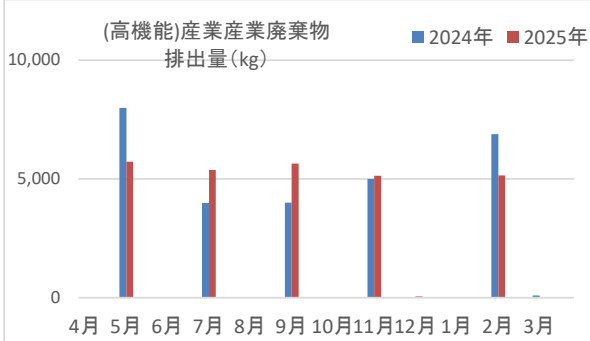


フォーク・トラック	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	0.000	0.000	0.111	0.129	0.000	0.114	0.000	0.132	0.090	0.116	0.158	0.000
合計	0.9	t-CO2	総生産量	401	t	原単位	0.002	t-CO2/t				
2025年	0.000	0.000	0.270	0.000	0.114	0.137	0.000	0.000	0.329	0.000	0.173	0.000
合計	1.0	t-CO2	総生産量	387	t	原単位	0.003	t-CO2/t	125%	(原単位基準年度比)		

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 年間を通じて目標値と比べて一般廃棄物量が減少した。 [次年度の取組計画] 2026年度も引き続き活動をすすめる。
・分別の徹底	○	

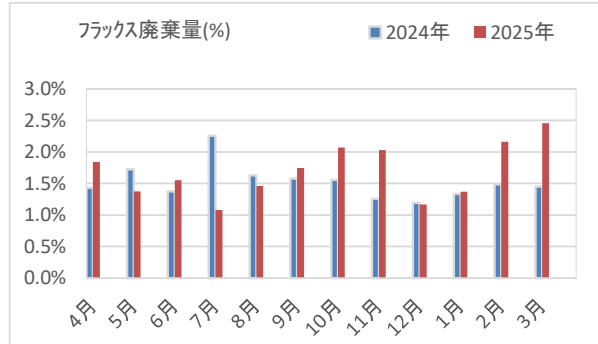


一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	414	495	432	459	408	429	432	510	375	423	420	348
合計	5,145	kg	生産量	401	t	原単位	12.8	kg/t				
2025年	402	447	366	465	414	411	477	399	387	462	432	339
合計	5,001	kg	生産量	387	t	原単位	12.9	kg/t	101% (原単位基準年度比)			
(高機能)産業廃棄物の削減					達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画						
数値目標					×	[取組結果とその評価]						
・作業ミスによる廃棄量の削減					×	年間を通じて、目標値以下の廃棄量に抑えることが出来た。						
・素材別ボックスの設置					○	[次年度の取組計画]						
						2026年度も引き続き廃棄物低減活動を進める。						



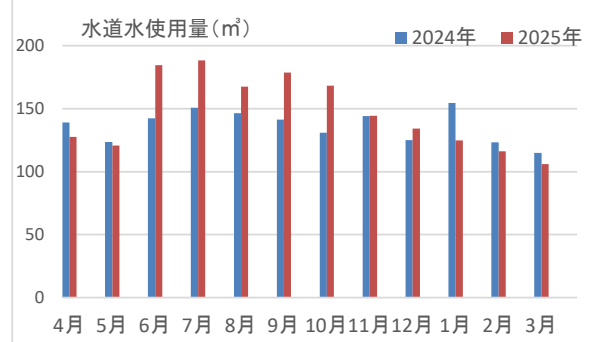
産廃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	0	7,990	0	3,990	0	4,000	0	5,000	0	0	6,880	100
合計	27,960	kg	生産量	111	t	原単位	252.2	kg/t				
2025年	0	5,730	0	5,380	0	5,650	0	5,130	60	0	5,150	0
合計	27,100	kg	生産量	108	t	原単位	251.9	kg/t	100%	(原単位基準年度比)		

フラックス廃棄量削減(廃棄比率低減)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 押出機ダイヘッドとシリンダヘッドの間に残る残フラックスの再利用を検討してきたが改善できていない。
・工程毎の不良詳細を記録する	○	[次年度の取組計画] 26上の取り組みとして、ダイヘッドとシリンダヘッドの間にプラマスクを3枚入れ隙間を少なくする事を検討する。
・押出不良削減	○	
・バリ取り不良削減	○	



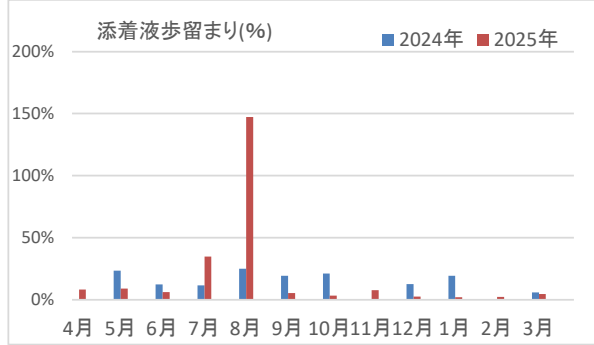
フラックス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	1.4%	1.7%	1.4%	2.3%	1.6%	1.6%	1.6%	1.3%	1.2%	1.3%	1.5%	1.4%
2025年	1.8%	1.4%	1.6%	1.1%	1.5%	1.7%	2.1%	2.0%	1.2%	1.4%	2.2%	2.5%

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 2025年度の6月から10月は工場棟の水漏れの影響で若干水量が増加した。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	[次年度の取組計画] 2026年度以降は迅速に原因を特定できる体制をつくるよう努めていきたい。引き続き無駄な水使用のない取り組みを続けていきたい。
・節水弁取り付け	○	
・自動水栓取り付け⇒全箇所導入を計画する	○	



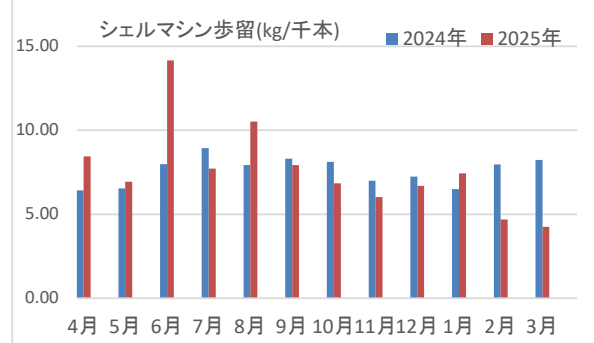
水道	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	139	123	142	151	146	141	131	144	125	154	123	115
合計	1,635	m³	生産量	401	t	原単位	4.1	m³/t				
2025年	128	121	184	188	167	179	168	144	134	125	116	106
合計	1,761	m³	生産量	387	t	原単位	4.5	m³/t	112%	(原単位基準年度比)		

マンガン廃棄量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 夏場に添着液が固化して廃却が多くなった。これから気温が上昇してくことから、添着停止期間中の添着液保管条件を検討していく。 [次年度の取組計画] 当面は、停止期間中の添着液攪拌機の周波数を上げて液の固化を予防する。攪拌機の周波数は少しずつ上げていき確認する。
・工程毎の不良詳細を記録する	○	
・添着液固着の削減を図る	○	
・添着液飛散減少対策をする	○	
・添着量規格に入るよう水添加で調整する	○	



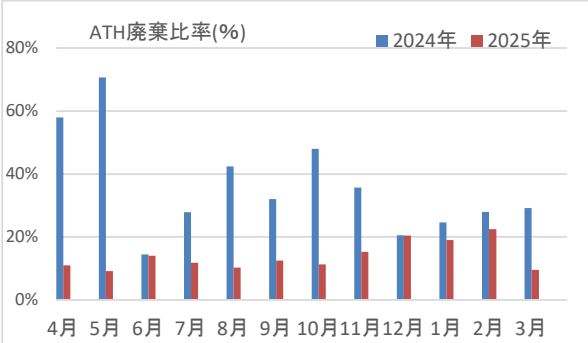
マンガン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	0%	23%	12%	12%	25%	19%	21%	0%	12%	19%	0%	6%
2025年	8%	9%	6%	35%	147%	5%	3%	8%	2%	2%	2%	5%

シェルマシン焼成歩留まり向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 12月下旬から1月にかけてくっつきの原因がブロー圧が強いことが原因と分かった。その後、くっつきによる不良が軽減し、安定しつつある。 [次年度の取組計画] 2026年度も生産性安定を目指し活動していく。
・加熱炉の空気比調整	△	
・設備予防保全の実施	×	
・設定温度用温調器交換による適正化	×	
・作業手順の見直し	△	
・サンド投入部パッキン補修による投入量の均一	△	



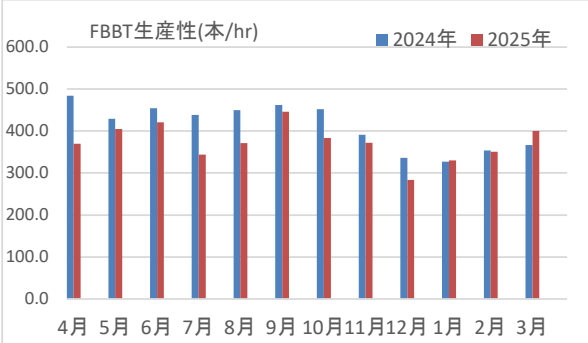
シェル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	6.42	6.53	7.98	8.93	7.93	8.31	8.11	7.00	7.23	6.49	7.97	8.23
2025年	8.45	6.93	14.15	7.73	10.51	7.92	6.84	6.03	6.70	7.43	4.68	4.24

ATH製品寸法外れ低減(歩留まり向上)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] リブ欠如対策：原料篩い追加 KOA(150メッシュ) #260201～ 長辺寸法大対策：Lot.251102 より間口サイズ変更 68.0×27.8→67.2×27.4 [次年度の取組計画] 上記対策を実施中、26年4月以降も効果を確認し追加対策を検討していく。
切断、全数検査工程で、不良詳細を確認する。	○	



ATH	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	58%	71%	14%	28%	42%	32%	48%	36%	20%	25%	28%	29%
2025年	11%	9%	14%	12%	10%	12%	11%	15%	20%	19%	22%	10%

FBBTライン生産性向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] パンチ穴(ガス抜き穴)のピッチばらつきに関して、真因の特定が困難な状態。品質優先での稼働計画を実施したため、生産性の回復に至らなかった。整列機での故障・チョコ停が頻発し生産性回復に影響。 [次年度の取組計画] 予備保全など、設備Gr協力のもと、見直し検討していく必要がある。
・不慣れ作業者への技術的教育の実施	○	
・設備トラブル防止の予防保全	×	



FBBT	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	483.8	429.4	454.4	437.9	449.3	461.5	452.3	390.6	335.8	327.3	353.9	366.4
2025年	369.5	404.6	420.7	343.5	371.2	446.0	383.6	371.7	283.7	329.7	350.2	400.0

□主な環境負荷の実績(大阪本社/東京)

項 目	単位	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素総排出量				
大阪本社	t-CO2	2.6	2.7	2.2
東京営業所	t-CO2	3.1	3.0	3.1
コピー用紙使用量(A4)				
大阪本社	枚	44,499	43,815	35,034
東京営業所	枚	10,400	3,021	3,685
※二酸化炭素排出係数		0.00042 t-CO2/kWh	電力会社の調整後の係数(大阪)	
		0.00048 t-CO2/kWh	電力会社の調整後の係数(東京)	

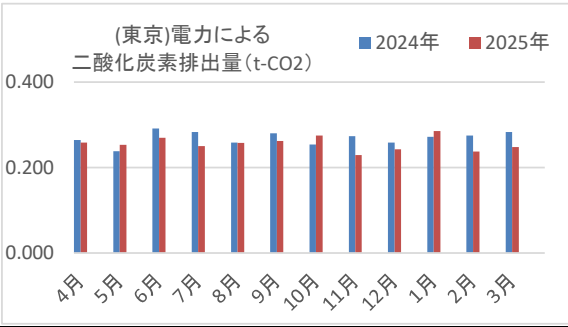
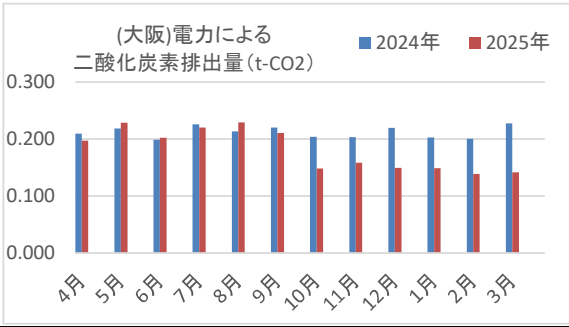
□環境経営目標及びその実績

項 目		2024年		2025年		評価	2026年	2027年
		(基準年)		上段: 排出量				
		(基準値)		(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素排出量削減(大阪)	t-CO2	2.5	2.5	2.2	○		2.5	2.5
	基準年度比	100%	99%	85%			98%	97%
電力による二酸化炭素排出量削減(東京)	t-CO2	3.2	3.2	3.1	○		3.2	3.1
	基準年度比	100%	99%	95%			98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計		t-CO2	5.772	5.715	5.240		5.657	5.599
コピー用紙使用量削減(大阪)	枚	43,815	43,377	35,034	○		42,939	42,501
	基準年度比	100%	99%	80%			98%	97%
コピー用紙使用量削減(東京)	枚	3,021	2,991	3,685	×		2,961	2,930
	基準年度比	100%	99%	122%			98%	97%
上記コピー用紙使用量合計		枚	46,836	46,368	38,719		45,899	45,431

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成
活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(大阪、東京)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 大阪は大幅な減少、東京は目標値よりも抑えることが出来た。 [次年度の取組計画] 次年度も節電活動を継続する。
・こまめな消灯の実施	○	
・事務所温度管理の徹底	○	
・啓蒙活動による節電意識の向上	○	



大阪	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	0.209	0.218	0.199	0.226	0.213	0.220	0.204	0.203	0.219	0.203	0.200	0.227
合計	2.5	t-CO2										
2025年	0.197	0.229	0.202	0.220	0.229	0.211	0.148	0.158	0.149	0.149	0.139	0.142
合計	2.2	t-CO2	85%	(基準年度比)								
東京	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024年	0.265	0.238	0.291	0.283	0.258	0.280	0.254	0.274	0.258	0.272	0.275	0.283
合計	3.2	t-CO2										
2025年	0.258	0.253	0.269	0.250	0.257	0.262	0.275	0.229	0.243	0.285	0.238	0.248
合計	3.1	t-CO2	95%	(基準年度比)								

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項	日高工場		大阪本社		東京営業所	
		該当	評価	該当	評価	該当	評価
廃棄物処理法	契約書、マニフェスト交付状況報告、適正処理	○	○	○	○	○	○
PCB特措法	適正処理、保管及び処分状況の報告	○	○	-	-	-	-
騒音規制法	特定施設等の届出	○	○	-	-	-	-
振動規制法	特定施設等の届出	○	○	-	-	-	-
水質汚濁法	排出基準の遵守	○	○	-	-	-	-
下水道法	排出基準の遵守	○	○	-	-	-	-
消防法(危険物)	消火設備及び危険物の管理	○	○	-	-	-	-
フロン排出抑制法	フロン類の回収・排出量の報告	○	○	-	-	-	-
PRTR法	排出量及び移動量の報告	○	○	-	-	-	-
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物の管理	○	○	-	-	-	-
公害防止組織法	公害防止管理者の設置	○	○	-	-	-	-

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局より違反等の指摘、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

外部からの環境上の苦情・要望等はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 地震の発生	
■実施日： 2025/9/5, 2026/3/16	■実施場所： 日高工場
■参加者： 日高工場従業員	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 工場稼働中に震度5強の地震が発生した場合を想定し、①地震発生時の初期行動②地震後の行動③避難場所での行動を実施しました。今回よりドローンによる建屋点検も導入しました。	
■評価： ☑手順書の評価(実践に沿った内容の訓練に見直す必要あり。次回の訓練に反映させる) 各工程ごとに配置した管理担当者を中心に班編成をおこない、地震発生時の二次災害防止のための安全確認を実施しています。今回は地区の消防署員立ち合いの元訓練をおこない、講評をしていただきました。指導いただいた課題を元に訓練を見直し改善を図ります。	
■実施状況の様子   	

緊急事態の想定： 汚水流出事故の発生	
■実施日： 2025/9/5	■実施場所： 日高工場
■参加者： 日高工場従業員 係長、リーダー、サブリーダー、従業員選抜	■実施内容： ・流出事故対応
■評価： ☑手順書の評価(次回は実践形式の訓練を計画する。) 従業員全員を対象に、工場敷地外への汚水流出防止ゲートの取り扱い訓練を実施しました。従業員選抜を対象とした工場内作業場の訓練では、汚水漏洩時を想定した液回収を吸水モップを使用し実際におこなっていただきました。	
■実施状況の様子   	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2026年4月15日

【環境方針】

現方針を踏襲しつつ従業員により伝わりやすく活動が出来る内容に見直します。特に自然環境を守り地球環境保全を重視する豊岡市に所在する日高工場は「環境に配慮した生産活動」や「社会との共生・協調」が求められています。2026年度も引き続き生産活動の基本である生産性・歩留の向上を目指した活動を機軸に、重点課題に取り組んでいきます。

【目標・環境経営計画】

①年、半期、月、週、日等適切な時間単位で現状を測定、記録し設定した目標は過去の実績と比較、考察を通し改善策を立案します。

②工場では製品の品種構成や生産量の変化に的確かつ継続的に実績が評価できる様、引き続き改善を繰り返し行っています。

③本社・営業所は設定した目標の達成に向け、活動を継続していきます。

④技術開発部は、神鋼 藤沢事業所内での環境活動に参画し、環境活動を継続していきます。

(1)日高工場

・活動メンバーの見直しや環境教育を実施して、環境意識の向上や改善活動の活性化に取り組んでいきます。

・下記のこれまでの活動をレビューし継続と改善に注力していきます。

a.二酸化炭素排出量の削減

EA21委員会・省エネパトロールの継続・実施

電力使用量の監視と削減課題の抽出・対策検討実施

LPガス使用量の監視と削減策の維持・継続

b.原材料・副資材の原単位低減と、製品・仕掛品の不良廃棄量の削減

廃棄物の適正な処理と管理 原材料と副資材の廃棄量監視と削減活動

製品・仕掛品不良発生量と廃棄量の監視と削減活動

c.節水と有害化学物質の使用量削減活動

水使用量の監視と節水・使用量削減活動の継続

化学物質のリスクアセスメントの確実な実施

d.関係法令の順守、その他

遵法意識の定着

法令改正等の適時確認

e.地域社会との共存共栄

地域貢献活動(工場周辺清掃や環境ハイキング)の継続

CSR活動の推進

(2)大阪本社、東京営業所

・下記のこれまでの活動をレビューし、継続と改善に注力していきます。

a.省エネ(電力使用量の削減)

b.廃棄物(紙、ペットボトル、缶などの分別の徹底)

c.省資源(コピー用紙(A4)使用量の削減)

d.水(共同施設での水使用量の節水活動の徹底と啓発)

【環境防災訓練】

環境災害を未然に防止するため、実地訓練を検討し、防災対策の有効性向上を図っていきます。

【環境経営レポート】

環境活動がより分かりやすく公表できる様に工夫と改善を図っていきます。

【事業を取り巻く状況】

【事業と環境とのかかわり】

生活環境の重要な要素である「空気」。臭気やオゾンを吸収・除去する当社フィルタ材がクリーンな空気を排出し、快適な環境づくりへ貢献しています。

【2025年度活動の評価】

活動状態を相互にチェックし活動のスパイラルアップに繋げ、次回、EA21認証継続できるように取り組んで下さい。

環境経営方針	☐ 変更なし	☒ 変更あり	※一部、用語と記載内容の見直しを実施
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり	
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり	

□これまでの環境活動の紹介

工場周辺の清掃活動:

■実施日: 1回/月

■実施場所: 工場周辺

■参加者: 日高工場従業員(環境委員会、総務係)

■実施内容:

月に一回、従業員による工場周辺の清掃をおこない、工場周辺の美化に努めています。

■実施状況の様子



地域清掃活動:

■実施日: 2回/年

■実施場所: 豊岡市内

■参加者: 日高工場従業員(有志)

■実施内容:

年に二回、従業員の有志で地域のボランティア活動に参加して、地域の美化や交流に努めています。

■実施状況の様子



工場5S活動

■実施日: 1回/月

■実施場所: 工場内

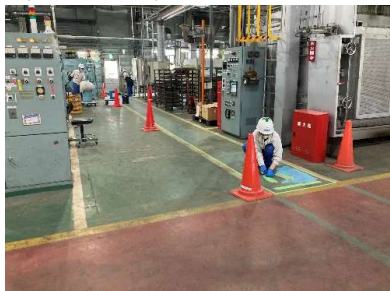
■参加者: 日高工場従業員(全員)

■実施内容:

月に1回、工場従業員全員で工場5S活動を実施しています。

工場内の整理整頓や作業環境の改善をおこなっています。廃棄物の分別に徹底的に取り組み低減に努めています。

■実施状況の様子



□編集後記

2025年6月、労働安全衛生規則の改正により熱中症対策の強化が義務付けられました。弊社でも2024年度に引き続き現場の暑熱対策を計画・実施しております。2025年度は天吊りエアコン増設に加えて、装着型深部体温計を導入しました。これにより重症化する前にアラートが発令し、休憩をとる予防体制づくりを構築出来ました。その成果もあり2025年度の熱中症は0件という結果になっています。2026年度も引き続き効果的な対策を検討・実施していきたいと思ひます

担当者 池田智史